

ワイドアタック™SC

■種類名：ペノキスラム水和剤

■有効成分：ペノキスラム-----3.6%

TM:ガ・ダウ・ケミカル・カンパニーまたはその関連会社商標

■登録番号：第22086号(ガ・ダウ・ケミカル日本登録)

■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)

■登録初年：2007.12.28

■性状：淡褐色水和性粘稠懸濁液体

■有効年限：5年

■包装：100ml×20本、500ml×20本

【特長】

- 茎葉散布型の中後期除草剤。
- 広範囲な水田雑草を1成分で防除する。
- 雑草の広い生育ステージに対応できる。

【適用内容】(2016年8月3日現在)

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	ペノキスラムを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
移植水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ、ホタルイ ウリカワ、ミズガヤツリ ヘラオモダカ、セリ ヒルムシロ クログワイ、オモダカ シズイ、コウキヤガラ	移植後 20日(イネ5葉期以降)～ノビエ5葉期 但し、収穫 30日前まで	100ml /10a	100 ㍓ /10a	2回 以内	落水散布 または ごく浅く 湛水して 散布	2回以内
直播水稲	水田一年生雑草 及び マツバイ、ホタルイ ウリカワ、ミズガヤツリ ヘラオモダカ、セリ ヒルムシロ	イネ3葉期～ ノビエ5葉期 但し、収穫 30日前まで					

【効果・薬害等の注意】

- 本剤は懸濁性液体なので、使用の際は容器をよく振って均一な状態にしてから所定量を取り出すこと。なお希釈は正確に行うこと。
- 散布液は使用当日に調製すること。
- イネの出穂時の散布は薬害のおそれがあるので使用は控えること。
- 前処理剤との体系で使用し、雑草の発生状況をよく確認し、時期を失しないように適期に散布すること。
- 薬害のおそれがあるので展着剤は添加しないこと。
- 散布する前にできるだけ落水すること。落水ができない場合は薬液が雑草に十分かかるようなごく浅水状態にして、水の出入りをとめ、まきむらのないように均一に散布すること。
- 落水が不十分だと効果が劣るので注意すること。
- 散布は噴霧状に行い、薬液が雑草全体によくかかるようにすること。
- 散布後少なくとも2日間(浅水処理は3日間)はそのままの状態を保ち、入水、落水、かけ流しはしないこと。また散布後7日間は降雨の有無にかかわらず落水、かけ流しはしないこと。
- 処理後1日以内に降雨があると効果が不十分になるおそれがあるので、晴天の持続する時を選んで使用すること。
- 本剤は生育期に入った雑草に効果があるが、雑草、特に多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので必ず適期に散布すること。ホタルイは花茎抽出始まで、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカは4～6葉期まで、ヒルムシロ、セリは生育期まで、クログワイは草丈20～30cm、オモダカは草丈30cm、シズイは草丈10cm、コウキヤガラは草丈20cmまでに散布すること。また、一年生雑草のミズアオイは3～4葉期まで、クサネムは草丈20cmまでに散布すること。
- クログワイ、オモダカ、シズイ、コウキヤガラ防除は、それぞれの雑草に有効な前処理剤と組み合わせて使用すること。また、クログワイ、オモダカに有効な前処理剤と組み合わせて連年施用することにより、さらに効果が向上する。
- 薬害のおそれがあるので重複散布を避けること。
- 軟弱稲では薬害のおそれがあるので使用は避けること。
- 本剤の使用後に低温が続くと予想される場合には、稲に生育抑制などの薬害が発生するおそれがあるので、使用をさけること。
- 薬害を生じるおそれがあるので、周辺作物にかからないよう十分注意すること。
- 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意すること。

- 散布機、ホース、ノズル、タンク等の器具は、使用後速やかに十分に水洗し、洗浄液は水田内で処理すること。また、使用した器具などは水稲以外に使用しないこと。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にしてお使いすること。特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- ❖ 散布の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。
- ❖ 魚毒性等：使用残りの薬液が生じないよう調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光を避け、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密栓して保管すること。